

暴力行為の根絶に向けて

平成16年5月11日
日本ミニバスケットボール連盟

私たちは、ミニバスケットボールの活動を通して、日本におけるミニバスケットボールの健全な普及発展を図るとともに技術の向上と、指導者の資質の向上を図ることを目的としております。とりもなおさず、子ども達の健全育成がその根幹にあります。

ミニバスケットボールの「友情、ほほえみ、フェアプレイ」の精神は子どもに対してのみ要求されるものではなく、指導者に対しても要求されるものであります。

しかしながら、大変残念なことに、ほんの一部の理解の足りない指導者の暴力行為の存在を確認いたしました。

ミニバスケットボールの活動において、**指導者の子供に対する暴力行為（言葉を含む）**が行われることは許されません。例え、その行為が、保護者の同意があったとか、指導者の独りよがりの指導論等で行われたとしても許されるものではありません。ましてや、勝敗やプレーの不出来による指導者の激高から行われた場合は言語道断です。勝利至上主義に偏った指導者ほど、その傾向があるとの報告も心配されるところです。

ほんの一握りの指導者の誤った指導方法や言動が、人々に不信や誤解を招くことを考えるならば、単にチームや、指導者個人の問題ではなく、健全育成を目指し努力しているミニバスケットボール界**全体に対する大きな問題**ととらえます。

児童の人権擁護や、ほめて育てる観点からも、暴力行為は絶対にあってはならないことです。各都道府県ミニバスケットボール連盟におかれましては、指導者の暴力行為が決して容認されるものでないことを指導者講習会や、代表者会議等の場で**指導の徹底**をお願いします。また、万が一、暴力行為が認められた場合は、迷わずに**厳正な処置**をお願いいたします。

以上